

本論要旨

2006年に上演した『レッドクリフ』は世界的に有名な監督であるジョン・ウーの作品であり、多数有名な俳優・女優陣の出演に加え、中国の伝統的かつ伝説的なシナリオであることから、世間の注目を浴びていた。しかし、世間の期待とは裏腹に、中国国内ではでは観客の期待に応えることができなかつたという。莫大な製作費がかかったにも関わらず、中国古代思想と文化を知ることができる代表的な作品である三国志に対する映画製作チームの人物やストーリーの理解及び表現手法に対する評価が低かつた。

高度経済成長真っ只中の中国は、先進国から大きく影響を受けている。中国映画が、知らず知らずのうちに、映画帝国ハリウッドの影響を受けていることは実際に製作された映画からも見る事ができる。2000年以降、中国古代の伝説や武術などを題材とした作品はよく製作されており、その殆どは莫大な製作費を費やしている。チャン・イーモウやチェン・カイコーのような中国を代表する監督も含め、同じような映画を次々と作り出している。映画製作のテクニックにおいて、3Dなどを用いられて、我々は進歩している中国映画を見ることができるが、その中で失われてしまったまたは適切に表現できなかった中国文化要素があると考えられている。

本論では、中国映画史における重要なポイントを抜きだし、全体的に中国映画のアイデンティティを幾つかの方面から注目してみよう。中国映画にはハリウッドと違う特徴がある。一例として、チャン・イーモウ監督の映画作品を挙げ、実例を通して、中国映画の変化を述べる。さらに、中国映画の現状をより明確にするために、ハリウッドの歴史や発展の中で最も中国映画に影響している側面について述べる。最後に、『レッドクリフ』を具体的な例として取り上げ、中国で上映された二つの三国志のドラマと比べながら、シナリオと人物設定について分析する。

中国は先進国のこれまでの発展から多くのことを学び、確実に自国の発展スピードを加速させることが出来るであろう。しかし、文化の模倣[からの影響力や持続性及びその文化の定着もほとんど望めないであろう。本論では、このような矛盾に言及しながら、発展している中国映画を論じる。映画発展における一つの段階を証明できればと考えている。